

# トヨタグループの名門企業 愛知製鋼の機密漏洩は「無罪」確定

## 日本の技術開発の課題を浮き彫りに

トヨタグループの愛知製鋼（愛知県東海市）の元専務らが、同社の磁気センサーに関する技術情報を外部に漏らしたとして不正競争防止法違反の罪に問われた刑事裁判に、決着が付いた。3月18日、名古屋地裁で元専務らに言い渡された判決は「無罪」。元専務らが扱ったのは「愛知製鋼の営業秘密とは言えない」として、検察側や刑事告訴した愛知製鋼側の言い分をはねのけた。検察は判決から2週間後の4月1日までに控訴せず、無罪判決が確定した。5年に及ぶ長期裁判の末、名門企業の主張が通らなかったこの結果からは、日本の企業や技術開発が抱える深刻な課題が浮かび上がる。

### 自動車と飛行機を同じ「乗り物」とする理屈

「裁判の途中から、私の無罪は動かないだろうと確信していた。実際に判決文はロジックを積み上げて、検察や愛知製鋼側に『ぐう』の音も出ないというほど我々の主張を認めてくれた。これではさすがに検察も控訴できないだろうという、我々の読み通りになった」

愛知製鋼元専務の本蔵（ほんくら）義信氏は、検察の「控訴断念」の一報を聞いた4月4日、現在の自身の研究開発拠点である名古屋市の「マグネデザイン」社内で冷静に語った。

本蔵氏は愛知製鋼時代に磁気インピーダンス（MI）効果を利用した高感度磁気センサー「MIセンサ」の開発を社内で主導。車載センサーやスマートフォンの「電子コンパス」向けに生産体制を築き、同社の新規事業の柱に育てた。

ところが、さらなる性能向上や市場開拓を巡って上層部と本蔵氏との路線対立が深刻化。

本蔵氏は2012年の株主総会で専務を事実上解任されたことをきっかけに、自らベンチャー企業としてマグネ社を設立。古巣を完全に離れた2015年、新たな磁気現象である「GSR効果」の原理を発見し、MIよりも小型高性能な磁気センサー「GSRセンサ」の製法特許を日米で取得した。

「MI」と「GSR」の違いについて、本蔵氏は「自動車と飛行機ぐらいの違いはある。ただ、それを同じ『乗り物』と見れば一緒だということもできる」と苦笑いしながら表現する。後者の「乗り物」の理屈で「秘密情報を盗み出した」とされたのが今回の事件だという。

### 「営業秘密を開示したとは言えない」と判決

裁判では、2013年に愛知製鋼岐阜工場（岐阜県各務原市）の会議室で、本蔵氏と当時の同僚で「共犯者」として逮捕・起訴された菊池永喜氏が、社外の技術者を交えて打ち合わせをした際のホワイトボードの書き込みが「秘密」の内容だったかどうかが問われた。

検察側は2017年6月の初公判での冒頭陳述で、ホワイトボードに書き込まれていたのは愛知製鋼が「非公表のノウハウ」として管理するMIセンサ製造装置の機能や構造などの技術情報だったと指摘。一方で、本蔵氏らは「MIセンサではなく、後にGSRセンサにつながる

5年及ぶ裁判で無罪判決を勝ち取った愛知製鋼元専務の本蔵義信氏（3月24日、名古屋市のマグネデザイン社で、筆者撮影）

